

第26回 日本精神科看護協会京都府支部 看護研究発表会



北山病院 10病棟 看護師 塩見 彰子

今回、日精看京都府支部での看護研究発表をさせていただき、他病院の方の発表を聞けたことや自分の発表に対しての講評をいただくことで、様々な学びを得ることができました。普段何気なく行っている看護でも、ひとつひとつの意味を考えて関わることで新たな気づきができるということの再確認にもつながったように思います。

発表までの期間は、普段経験することのない不安と緊張を味わいました。院内での発表は、人前にでるという緊張はありましたが、何度も出入りしている慣れた場所であり、やや早口にはなったものの楽しく終えることが出来たように思います。しかし、今回の会場は初めての場所ので、院内で発表した場所よりも広く、他病院の方がたくさんい



る、そう思うだけで不安と緊張が強くなり、嘔まずに発表できるか、時間内に終われるか、どんな質問がくるのかと考え、数日前からドキドキしていました。発表時は声が小さくなり、不安と緊張も続いていましたが、その分閉会後の「無事に終えた。」という開放感はとても心地がよいものでした。
今回の発表にあたり、ご協力いただきました皆様に感謝いたします。



第二北山病院 1病棟 看護師 柴田 敦史

私は日精看京都府支部看護研究発表会に推薦していただき、発表者として参加させていただきました。今回、その看護研究発表を緊張の中で行いましたが、滞りなく終えることができました。

講師の助言を受け、なんとか発表できる文面にすることができました。

私にとって看護研究は、「学術的なもの」という思いが強く、取っ付き難い物でした。しかし、先行研究検索や研究内容の考察など、科学的分析をすることで自分の関わり方の根拠を踏まえることができました。そのことによって、自らの思考・行動を振り返るき

っかけになったと思います。自己を振り返ることで、短所・長所を自分なりに理解できたと思います。ここで得られた経験は、今後関わる患者様にお返しできたらと思います。

最後に、院内・日精看京都府支部での看護研究発表にあたり、ご協力をくださいました皆様に感謝いたします。また、このような機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

北山病院 敬老会

認知症疾患療養病棟 いずみ 作業療法士 小林 真理子

いずみ病棟では介護福祉士スタッフを中心に、季節の行事を開催しています。9月21日には敬老会にてマジシャン(他病棟スタッフ)を招き、マジックショーを開催されました。マジックに参加された方も、間近でちぎれた新聞紙が元通りになると、思わず驚きの声が出たり、「すごいなあ」と皆さんから拍手喝さいで大変盛り上がりしていました。多種多様な本格的マジックに目を輝かせておられ、アソコルが出る程の反響で

ました。
また、9月で100歳のお誕生日を迎えられた方のお祝いを、皆さんと一緒に行事ができました。皆さんに祝福され、照れながらも「ありがとう、ありがとう」と感謝されている姿が印象的でした。他の方からは「次は私が100歳や」「おじいちゃんみたいに長生きしなあかな」と宣言される方もおられ、和やかな雰囲気での進んでいきました。いつまでも笑いが絶えず、皆さんがお元気で



生き生きと過ごしていただけるようなサポートをスタッフ一同、これからも心がけていきたいと思えます。

ウォーキング レクリエーション

指導員 加地 直子

就労支援センターヒューマンプラス

10月中旬の晴天の中、ヒューマンプラスの卒業生を交え、哲学の道く動物園に向けウォーキングレクリエーションを行いました。

の卒業生の体験や、社会に出るからのコミュニケーションの取り方のアドバイスなど、活発な意見交換が行われておりました。

当日は11名の卒業生、メンバーとスタッフ6名の総勢17名が銀閣寺に集合し、和気あいあいとウォーキングを楽しみました。各々のメンバーは就職に至るまで

こうした卒業生とのレクリエーションを行う事により、スタッフとしては卒業後のメンバーの現状がより良く把握出来、現役のメンバーは卒業生の充実した様



子を目の当たりにし、希望が沸いてくるようで、一石教鳥の効果があると思っております。
今後このような機会を通して、より一層きめ細やかなサポートが行えるよう努力して参ります。

